

# 大東文化歴史資料館だより

創刊号 2007.1.24

## 歴史との対話

大東文化大学学長 和田 守

大東文化歴史資料館がオープンした。待望久しかっただけに、その期待や大である。1923年開設の大東文化学院以来の資料収集と整理、展示・教育活動などの基礎作業が進められている。誠に喜ばしいことである。

かつて、ドイツ（西）大統領ワイツゼッカーは、戦争終結40周年を迎えた1985年に、改めて「過去を直視する」よう国民に訴えた。「過去に目を閉ざす者は結局のところ現在にも盲目となります」（『荒れ野の40年』）と。未来に向けても同様である。私どもは「歴史との対話」をとおして、未来を展望する。一人ひとりの人生においても、社会や国家においても基本的な営みといえよう。そこに刻み込まれた葉の一枚一枚が醸し出す息吹に耳を傾けてみたい。

そこから抽象的理念のみでは整除しきれない豊かで具体的な展開の可能性を見出すことができるであろう。本学の100周年に向けての大切な作業である。

ニューズレター『大東文化歴史資料館だより』が、協働の場を広げつつその役割を果たすことを期待している。



## 「大東文化歴史資料館だより」創刊の辞

大東文化歴史資料館館長 渡部 茂

大東文化歴史資料館は準備委員会の立ち上げ、プレ展示、規程整備等々のいわば「生みの苦しみ」の時代を経て平成18年4月に正式に開設されました。これも開設準備委員会の委員の皆様をはじめとする多くの方々の努力の賜物であり、改めて関係各位のご尽力に感謝する次第であります。とはいえ、この歴史資料館を学園のさらなる発展の礎とする本当の「育ての苦しみ」の時代はこれから始まるわけであり、その意味では新たな挑戦の出発点に立ったばかりであるといえるかもしれません。

およそ伝統ある組織というのはその歴史なくしては語れませんし、その健全な発展も正しい歴史認識があつてのことです。学園をめぐる環境が厳しいなか、これまでいわば拡大路線を踏襲してきた大東文化大学をはじめとする学園が今一度原点に立ち戻り、足元を見つめ直すことは学園の新たな飛躍にとって必要不可欠であり、また大東文化歴史資料館がその中核になるということはいうまでもありません。

ここに歴史資料館の活動内容を伝える「大東文化歴史資料館だより」の創刊号を発刊できますことは学園にとりましてまさに欣快の至りであり、また学園の新たな発展に向けて、皆様方のさらなるご支援を賜りますよう改めてお願い申し上げる次第であります。



## この歓ばしき開設

東京大学名誉教授 寺崎 昌男

開設までのプロセスで最も嬉しかったのは、出身者・交友の方たちから陰に陽にさまざまな支援があったことである。もともと、学園に新施設をつくるというような作業は、教員だけでできることではない。準備委員会の段階から職員の方たちの参加が不可欠だった。準備と発足には幾人もの同窓の教員が加わられたが、努力を惜しまれなかった職員の方たちもまた同窓生であり、惜しみなく努力を傾けられた。

歴史資料館すなわち学園のアーカイブスは、本校出身者の心のよすがとなる。母校への懐かしさを支えてくれる。しかし現在の日本の大学では、意義はそれだけではない。一つは、いま私学に最も強く求められているのが、建学の精神や個性や伝統であり、それを学内外に表明するという使命がある。二つは、それらを根拠づける学術的な歴史資料を収集・保存・公開するという役割がある。これらは、他の施設では実行できない。

建学以来の歳月の間に、大学・学園が選び取ってきた理念や方針、実態は、善なるものばかりではない。どの大学・学園にも過ちや迷妄が含まれる。その実態を語り、反省の基礎を提供するのも、歴史資料館である。他方、大東を大東たらしめた奮闘や栄誉も公開・展示される。大学・学園を最も大学らしく学園らしくするのがこの館の役割であり、世界中の大学がアーカイブスを持っているのも、それを目指すからである。このような大事な施設の開設に踏み切られた経営陣にも、心から敬意を表したい。

(歴史資料館運営委員会委員、立教学院本部調査役)



## 大東文化歴史資料館の設立経過について

教育学科教授 荒井 明夫

「学園関係資料の収集・整理・保存と展示などによる活用」「百年史編纂」「大東文化学園・大東文化大学史の講義」という3本の柱を軸にした大学アーカイブスの設立に向けて、須藤敏昭前学長・竹内哲夫前理事長の御協力の下、2004年6月設立に向けたプロジェクトチーム第一回会合を開催することができた。チームは、早速成蹊大学・明治大学、8月には京都大学・同志社大学・関西大学・神戸女学院大学のアーカイブスを訪問する、など精力的な活動を展開した。

他大学の見学から学んだ最大の教訓は、大学の個性がアーカイブスに現れているということ。いいかえるとアーカイブスの設立こそ大学の個性の確認・大学の個性の発揮にほかならないということだ。チームはほぼ毎月一回のペースで会合を重ね2005年1月には理事長宛に「答申」を提出した。

同年4月からは開設準備委員会として活動を展開。11月7日にはプレ展示「花開く学生文化」を開催、2006年4月には、第一回運営委員会を開催し正式発足する運びとなった。

今後、学園関係資料の収集と整理・展示などの活動が本格的に始まる。学園・大学の個性を確認する作業としてしっかり位置付け進めていきたいと考える次第である。

(歴史資料館運営委員会委員)





## 自校史教育科目『現代の大学』の開講について

2006年4月、松山校舎にて総合教育科目「自分をみつめる科目群」の中に『現代の大学』を開講した。大東アーカイブスの事業計画にあり、また活動の重要な柱である「学生に対する自校史教育への支援」としての開講であった。学生諸君には、この科目を通じて、自分が学ぶ大東文化大学の個性と特徴を、他の大学との比較においてしっかり把握してほしいという趣旨で開設した。

この講義科目の最大の特徴は、多彩なゲスト講師にあるといつてよい。和田守学長はじめ、大学史の現代の碩学・寺崎昌男元本学園理事、濱久雄元文学部長、桑原淳元一高校長に、それぞれ現代日本の大学について、大東文化大学の現状と課題について、大東文化学院での学びについて講義して頂いた。

受講した学生諸君の感想は好評だった。「自分がこれから4年間過ごす大学の歴史を発見することができた」「大東文化学院の設立にどのような人が関わったのか、初期の大東文化にはどのような人が教えていたのか興味をもって聴くことができた」。今後、アーカイブスの活動により収集した資料とその分析でさらに充実した講義内容が期待される。

(教育学科教授 荒井明夫)

### 【大東アーカイブス活動記録】(2006年4月～10月)

- |                              |   |
|------------------------------|---|
| 4. 1 大東文化歴史資料館(大東アーカイブス)正式発足 | 9. 16 第2回企画展「雑誌『大東文化』とその時代」開催(継続中)      |
| 4. 22 歴史資料館運営委員会会議           | 9. 29 京都大学大学文書館の現状・設備・展示を視察             |
| 5. 29 校史編纂部会・展示部会合同部会会議      | 10. 11 全国大学史資料協議会全国大会(於:広島大学, ~14日)に参加  |
| 7. 27 校史編纂部会・展示部会合同部会会議      | 10. 16 ニューズレター編集会議、校史編纂部会・展示部会会議、合同部会会議 |
| 8. 21 歴史資料館事務室、徳丸研究棟に開室      |   |
| 8. 23 東北大学史料館の現状・設備・展示を視察    |   |
| 8. 30 校史編纂部会・展示部会合同部会会議      |   |

#### ～大東文化学園に関する資料を集めています～

- ・写真 ・各種機関誌 ・記念品 ・講義ノート
- ・制服 ・書簡類 等

大東文化歴史資料館では、上記のもの以外にも学園関係史資料を広く収集しております。本学を卒業された方、かつて教鞭をとっていらした先生方や退職された職員の方々、そのほか関係者の皆様のご協力をお願いしています。お持ちのものでご提供いただけるものがございましたら、大東文化歴史資料館へご連絡ください。



歴史資料館展示室